

「(第4回クリエイティブ・サービスにおけるアジア・米国比較ワークショップ)参加報告書」

京都大学経済学部・研究科2年 (岡 涼平)

①学習成果

今回の第4回クリエイティブ・サービスにおけるアジア・米国比較ワークショップを通して、海外に対しての興味が一層増した。私は今までオーストラリアへの留学経験があったため、その満足感からか、大学に入ってから留学などの海外交流にはどちらかといえば消極的であった。しかしながら、アメリカでも特に様々な人種が存在するシリコンバレーを訪れ、多くの人達と交流していく中で、国際交流の楽しさを再び実感した。今までオーストラリアにしか訪れたことがなかったので、アメリカという土地はとても新鮮で得るものが多く、これをきっかけに、もっと他の国を訪れたいと感じるようになった。

また、京大での授業においても、より多くのE科目や、海外の学生と交流できる科目を選択していかうと思うようになった。派遣に参加したことで、自身の英語力の低さを再認識したので、英語でのコミュニケーション能力を高められるような授業に積極的に参加していかうと感じた。

更には、この研修を通して、将来再び留学に行きたいと思うようになった。特に、アメリカの学生の勉強、そしてそれ以外の課外活動への志の高さを学んだので是非アメリカの大学へ留学したいと思う。またアメリカのような英語圏だけでなく、ヨーロッパやアジアへ留学して新たな挑戦もしてみたい。

②海外での経験

今回の経験は主にシリコンバレーの企業訪問と、現地の大学生との交流の二つに大別できる。シリコンバレーの企業訪問では、大企業からスタートアップ、ベンチャーキャピタルやインキュベーターなど、様々な企業を訪問することができた。今までは大企業側からしか物事を考えたことがなかったが、事業の規模や、またどの立場から企業を捉えるか(例えば銀行)などによって目指すゴールや志が異なることを学んだ。シリコンバレーの最前線で働く人達からお話を聞くことが出来たのはとてもいい刺激になったし、このままの自分ではいけないと改めて認識させられた。また、スタンフォードの学生との討議では、自身の思考の浅さを痛感した。プレゼン内容に対して、思いがけない指摘を頂いたりしたため、この反省を普段のゼミでのプレゼンに活かしたいと思う。他にも、日本と海外でのプレゼンの仕方の違いも理解することが出来た。

③プログラム内容

プログラムのコアな内容である「アジア・米国比較」に基づき、スタンフォード大学でプレゼンをしたが、現地の生徒から思いがけないフィードバックが返ってきたのが印象的だった。私達は、よく「アメリカ人は～、日本人は～、中国人は～」などと国によって人柄や性格を決めつけがちだが、アメリカでは大きく異なった。アメリカではそもそも住んでいる人種が多様で、複雑なバックグラウンドを持つ人がほとんどのため、アメリカ人だから～などというステレオタイプ的な考え方は当てはまらないということを現地の学生に教えてもらった。国際化が進む中、国によって考え方を一つだと決め付け、それを比較することはますます困難になることを感じたため、今後比較する際は、多様性のある程度視野に入れて議論することが必須であると学んだ。

④進路への影響について

今回の派遣を通して、海外で就職・もしくは、海外へ駐在できるような職に就きたいと感じるようになった。無論日本に入れば安定した職に就けるだろうが、あえて慣れない海外へ行き、もっと挑戦したいと思う。アメリカではボストンキャリアフォーラムなどがあるため、それを利用して海外で就職できたらと考えている。